



参議院議員 参議院比例区第1総支部長

平戸航太

■プロフィール ■1987年7月生まれ(38歳) ■長崎県伊王島出身 ■2児の父
■九州大学大学院修了(株)日立製作所で設計者として勤務 ■こくみん政治
塾第1期生 ■参議院議員(全国比例区・1期) ■所属委員会 ■予算委員会 ■国
土交通委員会 ■デジタル社会の形成及び人工知能の活用等に関する特別委
員会 ■党役員 ■エネルギー調査会事務局次長 ■経済調査会副会長 ■国会対
策委員会副委員長 ■選挙対策委員会事務局長



平戸航太公式LINE

産業・職場・暮らしを守るため、政府に課題認識を提起

3月19日、第221回特別国会における予算委員会で質疑に立ちました。不確実性が増す国際情勢の中で、石油製品やレアアース等の供給不安が深刻化し、事業活動に切実な影響を及ぼしているとの声に基づき、政府へ安全保障に係る課題認識を提起しました。また、国際海底ケーブルをとりまく状況や安全保障上の課題、賃上げと投資を支えるための少額減価償却資産の対象額の見直しの必要性、エアコン2027年問題に対する理解促進の重要性、さらにスポーツ振興の強化に向けた課題を政府に提起しました。引き続き、皆様からの声を国政に届け「#メイドインジャパンを増やす」をはじめとする政策の実現に取り組みます。

● 国際情勢を踏まえた安全保障の強化について(エネルギー)

平戸航太の発言要約



備蓄放出と出荷状況を総合的に把握し、国民や事業者が確実に石油製品を入手できるように、入手段階の透明性を高めることが不可欠。

山田経済産業副大臣の答弁要約



石油製品の供給は流通段階に多くの関係者が関わり、一部で偏りも生じていると承知している。提供いただいた情報も踏まえつつ、石油元売りによる恣意的な供給制限が起きないように適切に対応していく。

● 国際情勢を踏まえた安全保障の強化について(資源)

平戸航太の発言要約

中長期的には海外からの特定資源への依存を減らす産業構造への転換が不可欠。代替素材、代替技術の研究開発を支援する政策こそ我が国の競争力確保に直結する。

山田経済産業副大臣の答弁要約

重要物資が特定国に過度に依存しない強靱なサプライチェーンの構築が重要であり、令和8年度当初予算案には調達ルート切替え支援も盛り込んでいる。今後も特定国への過度な依存を回避・低減する取り組みを支援していく。

● 国際海底ケーブルをとりまく状況について

平戸航太の発言要約



海底ケーブルは重要物資であり、基幹インフラとしての競争力確保が急務。研究開発、敷設、そして生産設備強化に対する一層の支援を求める。

林総務大臣の答弁要約



昨今の競争環境の激化などを踏まえ、競争力の確保の観点から官民協議会で議論いただいている。この議論などを踏まえ、敷設、保守能力の強化など必要な予算の確保を図っていく。

● 少額減価償却資産の対象額の見直しの必要性

平戸航太の発言要約



特に売る側の立場では、中小企業は国内企業の99.7%を占める一方、労働分配率が高止まりし投資に回す余力が乏しい。賃上げの前提となる価格転嫁を進めるためにも、実態把握と制度見直しが不可欠である。

片山財務大臣、山田経産副大臣の答弁要約



(片山財務大臣) 大企業も含めて全企業であり、今の時点で実態の把握はできていない。事務負担の軽減問題という制度の趣旨を踏まえ、誠意を持って検討は進めていく。

(山田経済産業副大臣) 実態の把握を進めていく。

● エアコン2027年問題について

平戸航太の発言要約

省エネ基準の引き上げは短期的にユーザーの負担増につながる場合があるものの、トータルコストでは環境にも家計にも優しい選択となることが多い。初期費用だけでなく総合的なメリットを適切に周知することが重要。

山田経済産業副大臣の答弁要約

省エネエアコンの普及は、エネルギー安全保障や脱炭素に加え、光熱費削減にも寄与する。こうしたメリットを促すため、一年間の目安光熱費の表示を求めており、今後も業界団体と連携して表示の徹底を図っていく。

● スポーツ振興の強化に向けた課題

平戸航太の発言要約



スポーツを核とした町づくりを進めることは地域活性化だけではなく、国全体の成長産業化にも中長期的に寄与すると考える。スポーツ基盤への国の積極的な関与を求める。

松本文部科学大臣の答弁要約



スポーツの成長産業化として15兆円産業をめざし、スタジアム・アリーナ整備を大きな柱として進めている。スポーツの力で地域経済を活性化し、周辺産業にも波及する取り組みを強化していく。

質疑の様子は、こちらのQRコードからご視聴いただけます。
(参議院インターネット審議中継)

